根城中

主体的に学ぶ生徒の育成

～課題設定の工夫と振り返りを通して～

（３年計画の２年次）

校長　　竹　花　和　人

１　研究主題について

具体的な研究内容を、①問題解決的な授業づくりのための「課題設定」②内言をつなげ、熟考させるための「振り返り」とその活用であるとし、ＩＣＴの活用についても追究することとした。

今年度は、研究目標②を中心に研究し、八戸市中学校教育研究会教科部会の会場校として、国語科と数学科、美術科で校内研究主題に沿った研究授業を行うことで、研究を推進することとした。

２　研究のねらい

「しかけ」「思考のズレ」「問題発見」をキーワードに導入や課題設定を工夫した「問題解決的な授業」を実施し、文字言語を用いた適切な「振り返り」とその蓄積、活用によって主体的に学ぶ生徒を育成する。

３　研究仮説

教師が「問題解決的な授業」を目指し、授業づくりを行うことによって生徒は興味・関心をもち、自ら学び課題解決に向かうようになる。また、自己の学びについて熟考し、文字言語によって、のちに生かせる振り返りを行うことによって、主体的に学ぶ生徒が育成される。

４　研究内容

(1)　「課題設定」の工夫

ア　「思考のズレ」を生み出し、生徒自ら「問題発見」につながるような「しかけ」を工夫し、実践する。

イ　実践したことを教員同士で共有し、互いの取組を振り返り今後の実践に生かす。

(2)　「振り返り」の工夫

ア　「内言」をつなげ、熟考させるための「振り返り」を工夫し、実践する。

イ　ＩＣＴを活用した振り返りについても工夫し、実践する。

(3)　令和４年度八戸市小・中学校教育研究指定校（1 年目）としての取組

ア　安心・安全で「魅力ある学校づくり」における、授業づくり・居場所づくり・絆づくりの視点

・一人一人の特性や様子の見取りと情報共有に応じた指導を目指す。

・導入や課題設定を工夫し、主体的な学びを引き出す授業の実践

イ　特別な配慮を要する生徒への個別支援の視点

・１人１台端末活用による、自己のペースに合わせた課題への取組

・時間割の工夫による、生徒が求める学習活動への参加の保障

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要等
10	4	八戸市中学校教育研究会教科等会場（国語・数学・美術の研究授業） 国語授業者：庄内 智子教諭　　指導助言者：佐々木 宏恵 校長（小中野中） 数学授業者：向山 裕己教諭　　指導助言者：川村 隆憲 教頭（第一中学校） 美術授業者：都谷森 晴教諭　　指導助言者：安田 眞理子 校長（三条中） ＩＣＴを活用し、自分の考えをまとめたり、他の生徒の意見を共有するなど、課題解決の場面で効果的に Chromebook を活用した授業が見られた。数学では学級の到達度や他の生徒の意見を全体で共有したり、授業で発言できなかった生徒のよい考えや疑問点・困り感、理解度等を把握し、見通しをもって、授業改善に挑戦できた。
11	10	教育指導課・総合教育センター・こども支援センター訪問 生徒から問いを引き出す導入の工夫について、さらに研究が必要であり、それにより、振り返りも生徒にとって、より自分事となり、深まるとの指導助言をいただいた。
12/1	2/28	校内授業参観月間　自分の授業を振り返り、新たな指導方法に気づくことができた。
1	10	校内研修　今年度の校内研究について、ワークショップ形式による振り返りをとおして、「課題設定の工夫」と「振り返り」について今年度の成果と課題を確認し合った。

(2) 一般研修

月	日	内容等
5	18	「Chromebook を活用した振り返りや e‐library の活用等」研修　講師：石井 一二三 主任指導主事（市総合教育センター）　Chromebook を使って、スプレッドシートやスライド、ドキュメント、ジャムボード等を活用した振り返りについて研修を深めた。
6	9	講演会「市中体夏季大会で最高のパフォーマンスを発揮するために～ぶれない心の整え方～」講師：夢コーチング RYOMA 塾代表理事　津村 柾広氏（全校生徒と全教職員対象） ルーティンの演習（表情、姿勢、呼吸、言葉、イメージング等）を通してメンタルの整え方について学び、楽しみながら力を発揮する方法について研修を深めた。
7	29	①「第１回 アセス（学校環境適応感尺度）の活用について」研修　講師：鈴木 悟 教頭 的確な支援のためのアセスメント（見立て）の方法について研修を深めた。 ②「主体的に学習に取り組む態度の育成とその評価」研修　講師：日向端 聖 副参事（市教委教育指導課）　指導と評価の一体化を目指し、教材や発問でしかけることや生徒の姿を見取ること、日常的に積み重ねることの大切さ等について研修を深めた。
10	26	「心のケア研修支援事業」　講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育科 教授 野口 和也氏 支援等が必要な生徒の授業参観、参観後の情報交換会の中で、適切な手立てや対応等について指導助言をいただき、研修を深めた。
1	10	「第２回 アセス（学校環境適応感尺度）の活用について」研修　講師：鈴木 悟 教頭 アセスを活用した支援チャートや具体的なサポートについて研修を深めた。

６　研究の成果

(1) 振り返りの効果を高めるには、本時のめあてを明確にし、導入の工夫や活動の場」を適切に設定することが有効であることを再確認できた。

(2) 「コーチング」の研修では、講師の津村先生の「明るい表情・笑顔」「プラスの言葉がけ」を体験することで、教師自身の指導を振り返り、生徒にとって意欲をもたせ、主体的な学びを引き出す指導の大切さに気付き、居場所づくりや絆づくりに生かせた。

(3) 「心のケア研修支援事業」では、生徒一人一人の特性や様子の見取り等について、適切な手立てや対応等を具体的に学ぶことができ、授業づくりや個別支援に生かせた。

７　研究の課題

(1) 「振り返りの目的」を自己調整学習の視点で再確認して共通理解し、「本時のめあてや学習課題に基づいた振り返りの工夫」等を重視した授業づくりを推進していく必要がある。

(2) 課題提示について、教師から提示するのではなく、生徒がもっと自分事として捉えられるように、生徒から問いを引き出す導入の工夫について、さらに研究していく必要がある。そのことによって、振り返りも生徒にとって、より自分事となり、深まっていく。

（記入者　鎌田　達也）